

アジア地域における高齢化への政策強化－高齢化社会の課題と対応－

Strengthening of Policy on Aging in Asia-Challenges of Aging Societies and Policy Responses

(実施期間:2016年11月27日~12月10日)

1. 本研修の概要

アジア地域の多くの国々において高齢化の進展は著しく、新たな健康課題となっている。わが国は世界有数の長寿国であり、高齢者ケアに関する制度や経験を有していることから、わが国の高齢化対策のこれまでの変遷や現在推進している地域包括ケアシステム等についての講義・演習・フィールド視察を通して、わが国の知見をアジア各国で活用するための方策を検討することを目的とした。



【川越市:シニアボランティアの活動視察(川越市祭り会館前にて撮影)】

2. 実施方法

国立保健医療科学院は国際協力機構(JICA)と連携して、本研修を2014年度より実施している。講義に加え、地域包括ケアシステムへの取り組み事例を学ぶための川越市視察(1泊2日)、シミュレーターを用いた高齢者疑似体験(半日)を体系的に実施した。また参加国の高齢者ケアの現状についても、プレゼンテーションを通じて情報交換を行った。

上記の全体プログラムを踏まえ、小グループによる課題解決に向けた現状分析ワークショップ、ならびに参加国ごとのディスカッションノートの作成と発表も組み込むことによって、アジア地域における高齢化政策対応の能力強化につなげる取り組みを行った。

3. 参加者

本年度はタイ(3名)、インドネシア(2名)、ベトナム(2名)、スリランカ(2名)、ミャンマー(1名)、カンボジア(1名)の6か国より11名の研修員を迎え、本研修を行った。研修員は、中央政府や地方政府にて高齢者ケアを担う中堅職員であり、医療・保健分野もしくは福祉・社会保障分野の担当者であり、研修期間を通じて活発なディスカッションが行われた。

科学院での活動風景



【講義:3-1,2講義室】

【図書室見学】

【閉講式:第一会議室】